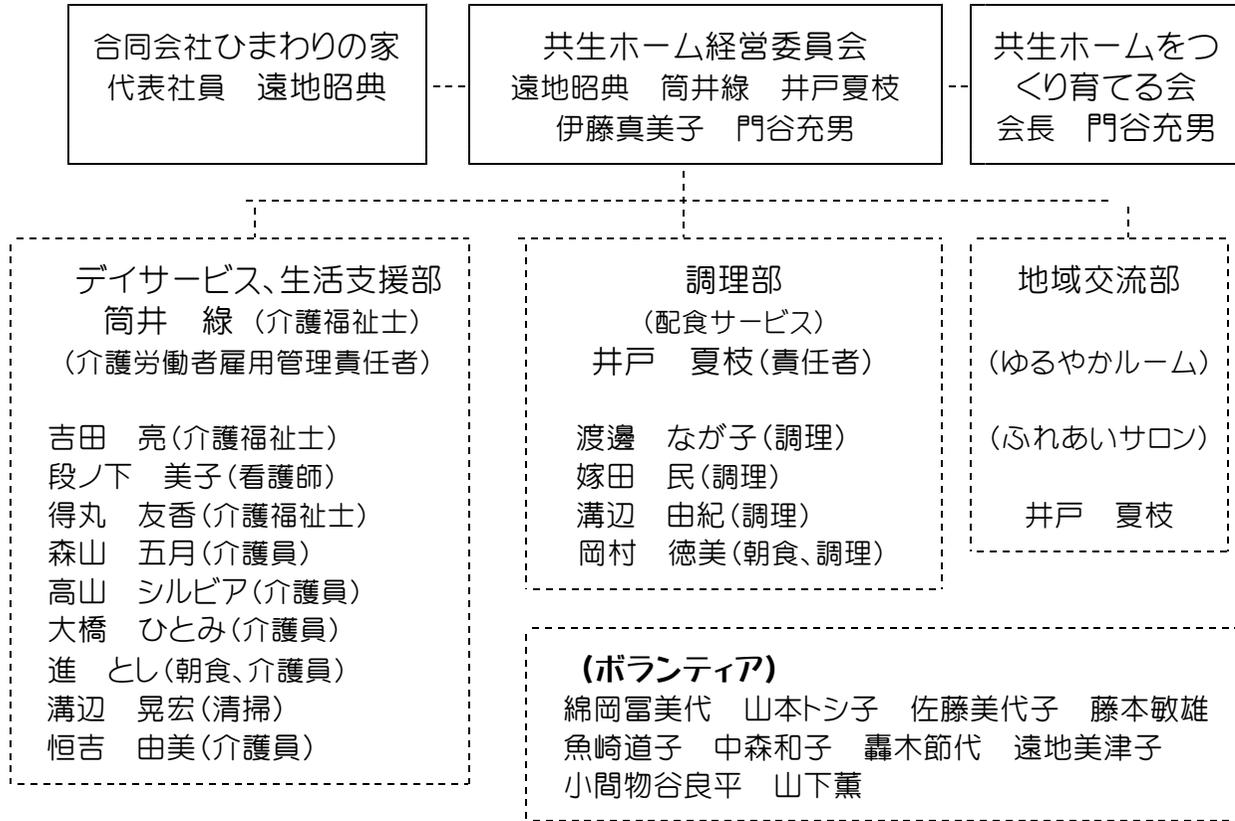


共生ホームひまわりの家組織



経営委員会 …… 経営方針、事業計画、予算・決算、スタッフの処遇改善等共生ホームひまわりの家の経営(事業)活動を行う。
共生ホームをつくり育てる会 …… 共生ホームの運動をひろげ、その担い手を育成していく活動を推進する。
合同会社ひまわりの家 …… 共生ホームの日常活動、予算執行、生活支援等の実務を行う。

2010年4月「共生ホームひまわりの家」が開設、高齢者専用賃貸住宅事業、介護保険デイサービス事業が始まりました。合同会社ひまわりの家を経営主体として運営してきました。
2011年2月に経営主体を合同会社ひまわりの家と共生ホームをつくり育てる会で「経営委員会」設立して運営することになりました。
経営も第1期、第2期の決算では「赤字」のため臨時的借金と保証協会融資の増資により切り抜きましたが、第3期(10年10月～11年9月)の決算ではなんとか「赤字」にはならなくてすみます。
第4期を迎えてデイサービス事業の充実と利用者の拡大、ケアプランセンター等を展望して事業進めていきたいと思ひます。

2011年10月

合同会社ひまわりの家
代表社員 遠地 昭典

スタッフ、利用者とともに
共生ホームの理念を共有する
とUSへみを進めよう

共生ホームをつくり育てる会
会長 門谷 充男

共生ホーム「ひまわりの家」開設から一年半が経ちました。3年前の7月に育てる会メンバーで富山市の「デイケアハウスにぎやか」を訪問し、乳幼児学童からお年寄りまで、障害のある人もない人も、そして利用者もスタッフも共に一つ屋根の下に集い生きる、そこに一人ひとりが輝いている、そんな共生ホームの理念を初めて実感しました。

この訪問で、富山市を中心に多く作られているような地域の皆が地元西淀川にもあればこの思いを強く、

共生ホーム「ひまわりの家」建設への動きが一気に加速した。そして昨年4月、ついにその理念の第一歩が具体的な形となつて実現しました。しかし、本当の「実現」はまだこれからです。文字通り「地域の皆」としてさまざまな人が気軽に集い、共生ホームの名に値する施設として創り上げていくには、スタッフ、利用者、そして育てる会の、実践に裏付けられた理念の共有化が不可欠です。

育てる会は、この間、子ども障害者、高齢者が共に普通の生活ができるようにつ



マライゼーションの先進地域であるデンマークやスウェーデンの教育文化福祉を学ぶ活動、共生ホーム「建設運動」とともに、「ひまわりまつり」や納涼祭などのイベント企画の取り組みを行ってきましたが、今後さらにスタッフ、利用者さんとともに共生ホーム「理念の共有化をはかる取り組みを進めていきたいと思ひます。

使用済み天ぷら油を回収します
(菜の花プロジェクト)

菜の花プロジェクトは菜の花を育て、油をつくり、てんぷら油を回収して、エネルギーに転換する活動です。
ひまわりの家駐車場に回収場所を設けました。
使用済みのてんぷら油をペットボトルに入れて持ってきてください。

